

令和4年度 特別活動経営について

1 本校特別活動のねらい

- 学級の子どもたちによる学級目標へ向けた望ましい集団活動を基盤とし、学級に生じた諸問題を解決していく中で、自ら考え、主体的に判断し、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

2 目指す子ども像

自己肯定感を形成する環境の一つが学校である。その中でも特別活動は、集団の中で、自他の存在を認め、誰かのためになっている経験の積み重ねができる領域である。

また、特別活動は、自主的、実践的な活動に加え、自発的、自治的な活動であることを特質としている。従って特別活動では、自分たちで決めたり、決めた目標に向かって、個々を生かしながら取り組んだりすることで、自他のよさを実感できたり、再確認できたりすることができる。つまり特別活動を繰り返すことで、自己肯定感が高まるとともに、自分たちのくらしを「少しでもよりよくしよう。」という思いが育まれていく。

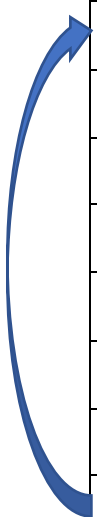
集団の中で、紆余曲折を経ながら、お互いの自己肯定感を尊重し、自分たちでよりよくしていく大切さを学ぶことが社会に出た際のくらしの向上へとつながるであろう。

以上のことから本校、特別活動部では、自他の自己肯定感を尊重し、くらしの向上を実現する子どもの育成を目指す。

自他の自己肯定感を尊重し、くらしの向上を実現する子ども

3 学習過程

学級活動（１）における話合いの学習過程



事前活動	願いの表出・計画委員会事前準備
どんどんタイム	意見を出し合う（発言・事前に板書・質疑）
くらべるタイム（心配な意見）	意見を比較（ネガティブな要素）
くらべるタイム（ビルドタイム）	意見を比較（ネガティブ要素をポジティブへ）
くらべるタイム（賛成の意見）	意見を比較（ポジティブな要素）
たしかめタイム	現段階での自分の願いを表出する
まとめるタイム（自己決定の時間）	合意形成・活動へ向けて自己目標を決める
事後活動	実践・振り返り

4 方策

(1) 事前活動の進化

子どもは、学級のくらしを向上させることを願って様々な議題案を提出する。事前活動の段階では、これらを学級全体の願い（議題）へとするために、次のような取組を行い、その充実を図る。

- ① 議題の募集（常設の「議題カード」「議題箱」）
- ② 計画委員会と教師による議題の整理・精選
- ③ 教師と議題案の候補者との打ち合わせ。
- ④ 議題案の選定会議【学級タイム】
- ⑤ 議題に対する考えを個人ノートに書く。
- ⑥ 自他の思いを視覚的に確かめ共感する場を設ける。
- ⑦ 個人ノートを集め、話合いの方向を決める。【議題選定会議】

(2) 討議法の工夫

【四段階討議法】（低学年）

よりよい合意形成を図るために四つのステップから成る「四段階討議法」で話合いを行う。これは主に低学年における話合いの実態を考慮し、よりよい合意形成へと向かうための手立てとなるたしかめタイムを設ける。

- ・円滑な話合いのために「くらべるタイム」におけるそれぞれの意見の比較検討の手順を示す。
- ・「たしかめタイム」における自他の立場を明確にし、客観的に話合いの流れを掴み、よりよい合意形成へとつなげていく。

出し合う	互いの意見を出し合う。
比べ合う（ビルドタイム）	互いの意見を比べ合う。
確かめる	自他の考え、話合いの状況を知る。
まとめる	合意形成を行う。

【三段階討議法】（中・高学年）

三つのステップから成る「三段階討議法」で合意形成を図る。くらべるタイムでは、段階を踏みながら会を進めることで、意見のよさや課題について共有していく。また、くらべるタイムの中においてビルドタイムを設けることで、課題を改善する意見を考え、建設的な話合いへと進めていく。

出し合う	互いの意見を出し合う。
比べ合う（心配→ビルドタイム→賛成）	互いの意見を比べ合う。
まとめる	合意形成を行う。